

ボランティア活動グループ訪問記



ふちのべ学習教室 さがみはら国際交流フロンティア活動グループの訪問記



毎週の蒸し暑さが残る10月、日の夕刻、淵野辺駅南口には近頃「そがみはら国際交流フロンティア」を訪問して

た。明るい灯りが通りまで届いています。中では教育支援部担当の角田憲司さんが打ち合わせの最中でした。ここでは月・火・水の午後の時から「ふちのべ学習教室」が開かれています。外国につながる子ども達が来室し、ボランティアの方たちがそれぞれ応じた学習支援をしているのです。角田さんは入室を希望する子どもたちを受け入れ、学習支援者たちがマッチングをし、教室全体の運営に当たっています。

*来室する子どもたちはどのような子たちなのだろうか？



角田さん(左)と間瀬さん

中国、韓国、フィリピン、バングラディッシュ、ネパール、アメリカ、メキシコなど世界中の国々から、本人や親が日本へ来た子たちです。日本で生まれるなど日本語を十分話せる子もいますが、全く話せない、読めない、書けない子も多くいます。学校での学習や高校等の進学の悩みや支障があり、市の相談窓口や学校の先生などから紹介されたりして来室します。小学生、中学生、16歳以上合わせて毎年20〜30人が登録します。

*このよりの学習をしていなくても大丈夫か？

ひらがな、カタカナの読み書きから学校の宿題、高校受験対策のための数学や英語に力を入れたり、漢字練習をしたりと学習する内容はさまざまです。一人ひとりに応じた課題に取り組んでいます。週3回来る子どもいれば、週1回の子もいます。マンツーマンに近い形で学習支援者が担当できるようになっています。

*学習支援のボランティアの方たちについて教えてください。

大人の支援者に加え、大学生、高校生のボランティアが学習支援に当たっています。また、近隣の会社の方も支援に入っています。大学生は大学のゼミ関連で来室、短期でもたくさんのお手伝いを得られ助かります。学習支援は大人と学生で組み、途切れず子どもを支援できるような体制を取っています。学生には「仲良く話し相手になることも大事」と伝えています。徐々に支援者は増えていますがまだまだ少ないと感じます。



**

お話を伺っている間も、今日から入室というスケジュールの子を案内したり、親からの入室の相談の電話が入ったりと角田さんは大忙しです。学習中の教室の様子を見せていただきましたが子どもたちはそれぞれ支援の方たちと和やかながらも集中して課題に取り組んでいました。

先ほど来たネパールの子ももつつかりな感じで机に向かっています。

「教室のきまり」も決められて掲示板、落ち着いた雰囲気を守られています。



教室のきまり

中国につながるがめんどいという中学生の一人は、日本生まれで仲良し。いろいろな支援の先生に会い、それぞれ得意なことが学べる、将来は自分たちも子どもたちに教えるようになり、恩返しをしたいと笑顔で口々に話してくれました。

また、学習支援者の野口勝通さんは、定年後ボランティアに。高校に受かった子たちがお礼を言いに来てくれるのが嬉しく、今年も支援を頑張りたいという原動力になっていると話した。高校受験も合格して終わりでなく、高校と連絡を取り合っていてその後進路など見守ってあげられるそうです。「子どもの数だけ人生がある」という学習支援者の間瀬さん(まぜたみこ)の言葉は大変印象的でした。

市内には外国人の方も多く、ボランティア団体による子どもたちの学習教室や日本語の教室がいくつもあり、どこも熱意のある方の活動で成り立っています。

少しでも関心のある方は支援者として活動してみたいかがでしょうか。(杉崎)

*ふちのべ学習教室

さがみはら国際交流ラウンジ 教育支援部
〒252-0233 相模原市中央区鹿沼台1-9-15
電話：042-750-4150
角田憲司(問い合わせ080-8914-4960)

